

# 安吾雑報



第95号

発行日：2026年1月15日 発行所：安吾の会 世話人代表・発行人：齋藤正行 編集長：西山寛子  
共同代表：小川弘幸 事務局長：久志田渉 会計・発送：高見美智子 街歩き：渡邊充  
事務局／新潟市中央区八千代2-1-1「新潟・市民映画館シネ・ウインド」内 TEL025-243-5530 FAX025-243-5603 題字・渡邊秀英

※安吾の会は、A(ANGO)プロジェクトとして一九八六年一月二〇日に発足、その翌年一月二〇日に安吾の会となりました。

## 「坂口安吾を新潟市名誉市民にする会」 設立総会及び懇親会のご案内

拝啓 厳寒の候、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より地域文化の振興につきまして格別のご理解とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新潟が生んだ文豪・坂口安吾は、その文学と思想を通じて、戦後日本の精神的風土の形成に大きな影響を与え、今日においても「自由」「個の自立」「責任」という普遍的価値を私たちに問い続けております。

こうした坂口安吾の功績と思想を、郷土新潟の誇るべき文化的遺産として次世代へ継承していくことは、地域文化の振興のみならず、地方から文化を創造・発信していく上で極めて重要であると考えております。

また、将来の課題として、坂口安吾に関する様々な資料をまとめて保全展示し、情報を発信できる施設の構想が重要になります。

この様な現状を鑑みて私どもは、坂口安吾の名誉市民顕彰を目指し、広く市民・企業・団体の皆さまと力を合わせて取り組むため、「坂口安吾を名誉市民にする会」を設立する運びとなりました。

つきましては、下記のとおり設立総会及び懇親会を開催致します。

ご多忙の折とは存じますが、本趣旨にご賛同賜り、ぜひともご臨席を賜りますようお願い申し上げます。

日時 令和8年1月31日(土)  
17:00～19:30(開場16:30)

会場 新潟東映ホテル1階

内容 【第一部】設立総会  
【第二部】懇親会

会費 7500円

ご賛同者(会員希望)及び設立総会・懇親会参加の有無について

令和8年1月16日(金)までにFAX或いはメールをお願い致します。

坂口安吾を新潟市名誉市民にする会

連絡先 呼びかけ人 平山征夫  
山内春夫  
齋藤淳

「坂口安吾を新潟市名誉市民にする会」設立準備事務局

新潟・市民映画館  
シネ・ウインド内

電話 090-5799-1711  
(担当：齋藤和利)

FAX 025-243-5603

Eメール satokazutoshi@gmail.com

1906-2026  
坂口安吾  
生誕祭  
120



▲設立総会・懇親会申し込み用紙

### 生誕祭120に向けて

今年、坂口安吾生誕120年に当たります。生誕祭実行委員会では令和8年度をメモリアルイヤーと位置づけ、安吾に関する様々な事業と連携してまいります。

りゅーとびあでは4月にアート・ミック・ス・ジャパンのプログラムとして立川らく萬による安吾原作「落語・教祖列伝」から新作落語「兆青」の口演、ついで6月にNoism Company Nigataによる「メランコリアー安吾、そしてサティの世界」公演が劇場で行われます。コンサートホールでは新潟Aフィルハーモニックの定期演奏会でエリック・サティの楽曲が演奏される予定。誕生月の10月には、ギャラリーで企画展「処方箋文庫」、能楽堂で「坂口安吾国際シンポジウム」を開催。翻訳家の齋藤真理子氏、作家の藤沢周氏も登壇します。

ほんぼーとでは、安吾の遺品や原稿を展示するほか、各公民館でも講座などが検討されています。毎年恒例の「安吾読書会」、今年はいよいよとて実施。

シネ・ウインドでは4月に加藤翠(朗読)、中川えりか(歌・二胡)「桜の森の満開の下」公演を行うほか、坂口安吾原作映画の連続上映会など企画。ほかにも連携事業は盛り沢山。準備が整い次第、総合リーフレット及び安吾デジタルミュージアム特設ページで発信していきます。

小川弘幸



### 新津安吾忌案内

日時 2月17日(火)

参加費 無料  
講演会13時、  
第一部 講演会13時、

「坂口安吾『白痴』を生原稿  
で読む」  
講師 文芸評論家 若月忠信  
場所 新津地域学園  
201研修室

第二部 募参(秋葉区大安寺)

15時(予定) バス乗車で坂  
口家墓所へ 読経、お参り  
問合せ先 阿賀浦コミ協 湯田  
080-1251-8096

### 第34回 安吾忌の集い

昨年の安吾没後70年記念、展示では「安吾と桐生展」、講演は藤沢周氏の「妄動の時代」、朗読はシリーズ化した高校生の朗読、そして高校生によるサティ演奏と桐生の特色が出せた企画であったと思います。展示会の中から後に開催された神奈川近代文学館での「坂口安吾展・あちらこちら命がけ」に数点が展示されました。

さて今回はやはり新潟ゆかりの近藤ようこさんを迎えます。そして桐生で恒例化した高校生に登場してもらいます。若い世代に期待しつつ、又体験することで後年にも安吾作品に出会うことを願っています。  
さて桐生の会は来年で35回目ですからお楽しみに・・・

奈良彰一

日時 2月28日(土) 16:00開会  
会場 桐生鍾座(桐生市本町4丁目)  
会費 無料(協賛お願いします)

1, 高校生朗読シリーズ 県立桐生高校  
演劇部1年生(作品は検討中)

2, 高校生安吾邸を建てる

県立桐生高校建築科生徒  
建築甲子園優勝「桐生のゆかりの地  
に安吾邸を建築する提案」

3, 漫画家 近藤ようこさん  
「安吾を描く」

聞き手 蓑崎昭子(安吾を語る会)

終了後 著者サイン会  
懇親会 同日の夕方6時から同町角店  
「美喜仁2F ジパンゲ」

会費 6000円

### 坂口安吾忌生誕祭120際 千賀ゆう子没後7年追悼公演

「桜の森の満開の下」

語りと、歌・二胡による  
語り/加藤翠

会場 新潟・市民映画館  
シネ・ウインド

日時 4月18日(土)

料金 前売り3000円(当日3500円)  
主催・問合せ 安吾の会(シネ・ウインド内)

電話 025-243-5530

### 2026年 松之山安吾祭りのお知らせ

毎年恒例の大棟山美術博物館での「坂口

安吾祭りin松之山」を今年も開催いたします。同博物館は、1200年代から続く松之山地区の大地主、旧村山家を活用したものです。村山家はその昔は造り酒屋でもあり、坂口安吾の叔母と姉が嫁いだ家でもあります。安吾はこの村山家に何度か逗留し、松之山の大自然の中で作家としての「ふるさと」を発見したとされます。「坂口安吾祭り」はそんな安吾と松之山の関わりを再認識し、多くの人と共有する催しです。今年はとくに2025年に発見された安吾の手紙の内容を、安吾研究者である七北数人さんが紹介、分析します。 高橋主計

日時 5月16日(土) 13:30  
場所 大棟山美術博物館(新潟県十日町市松之山1222)

### 内容

- ・坂口綱男氏の挨拶
- ・発見された安吾の手紙の紹介&分析
- ・七北数人氏
- ・七北数人氏の『安吾疾風伝 放浪篇』について
- ・著者と梨本諦鳴氏の対談
- ・朗読 橋由貴(松之山にちなんだ安吾作品を予定)
- ・さらにご希望の方には懇親会(18時~20時 綾雲閣(要予約先着40名・参加費別))があります。さらなる詳細は追ってチラシにて告知させていただきます。ぜひ、安吾ゆかりの地である大棟山美術博物館での「安吾祭り」に、ふるってご参加ください。〈申し込み&お問い合わせ〉

松之山安吾の会  
電話 080-8498-6555  
FAX 025-596-2522

## 1906-2026 坂口安吾 生誕祭 120

### 2026年 安吾読書会について

毎年恒例の安吾読書会ですが、2026年も同じく4月から9月の第2土曜日16時~18時、計6回行う予定です。

ちなみに場所はいずれの会も「ゆいぽーと(新潟市芸術創造村・国際青少年センター)」で、参加費は500円となっております。

読書会の案内人はほぼ決定し、一部そのテーマや内容も、現時点でわかる範囲で以下ご紹介いたします。(いずれも敬称略)

- 第1回(4月11日)案内人:齋藤良助(安吾の会)テーマ「坂口安吾の啓蒙思想」
- 天皇陛下にささぐる言葉」と『フィガロの結婚』内容:「フィガロの結婚」は殿様と召使の対等な人間関係を求めた。安吾の「天皇陛下にささぐる言葉」も、天皇と国民の対等な人間関係を求めた。両者に通じるものを導き出す。
- 第2回(5月9日)案内人:鬼澤みい(安吾の会)テーマ:「安吾の作品と思想香る少女性」内容:「安吾の作品に潜む「少女性」と、先駆的な女性観・女性の自由についての記述を拾いつつ、矢田津世子宛の書簡を紹介しながら、安吾の「少女性」を読み解く。

●第3回(6月13日)案内人:恩田雅和(和歌山市立有吉佐和子記念館館長・天満天神

繁昌亨アドバイザー）テーマ：「安吾はふるさと」内容：新潟弁や執筆した場所の考察などを手掛かりに、「ふるさととは語る」となし」と言った安吾の郷土観を再度突き詰める。

第4回（7月11日）、第5回（8月8日）、第6回（9月12日）は、今のところ石垣雅美（新潟文化の記憶館）、清水優介（新潮社）、永田幸男（安吾の念）の3名の方々にお願いする予定です。後程すべて詳細が決まりましたら改めてチラシなどで告知致します。

### こわれ者の祭典 新潟公演

坂口安吾生誕祭120前夜祭

随ちることから始まる物語

坂口安吾は『墮落論』に「随ちきつたところから始めよ」と書きました。薬物、孤独精神の闇。その経験は、こわれ者の祭典メンバーが抱えてきた体験と重なります。安吾生誕120年。私たちは「こわれ者の先輩」としての安吾を語り、安吾作品朗読と自作パフォーマンスで、随ちた場所からの再生を描きます。

日時 3月1日（日）開場13:00/開演13:30 16:00終演予定

会場 新潟市総合福祉会館大集会室  
出演 月乃光司/Kacco/キバ  
ゲスト ヤシ・オズ/ゆみ  
齋藤正行

参加費 1000円  
主催・お問い合わせ 080-6618-8806

### 『メランコリア』安吾、そしてサティの世界 改訂版『春の祭典』

2026年に生誕120周年を迎える新潟市の作家・坂口安吾の短編等からインスピレーションを得て金森稜が新作を構想。安吾が愛したエリック・サティのピアノ曲によって紡がれる舞踊詩。

同時上映はストラヴィンスキー作曲『春の祭典』。2020年にコロナ禍でプレビュー上演し、2021年に完全版として上演し好評を博した作品をNotism+Notism1による改訂版として上演。

#### ■新潟公演

- 6月27日（土）17:00
  - 6月28日（日）15:00
  - 7月4日（土）15:00
  - 7月5日（日）15:00\*全4公演
- りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館（劇場）

#### ■埼玉公演

- 7月25日（土）15:00
  - 7月26日（日）15:00\*全2公演
- 彩の国さいたま芸術劇場（大ホール）

1906-2026  
**坂口安吾生誕祭**  
120

#### 原武史氏が「安吾の天皇論」を読み解く

「坂口安吾生誕祭119」は10月20日、新潟市民プラザホールで開催された。冒頭のあいさつで坂口綱男氏（写真家）が、没後70年を迎える遺族の思いを語り、続いて

政治学者・原武史氏（明治学院大名誉教授）が「安吾の天皇論を語る」のテーマで講演を行った。

原氏は、安吾に「墮落論」「新日本地理」など天皇を論じた作品が多いことから、「安吾は天皇および天皇制に並々ならぬ関心を持っていて」と述べ、1948（昭和23）年に発表された「天皇陛下にさぐる言葉」に絞って本論を展開した。

昭和天皇は46年からの戦後巡幸で、沖縄を除くすべての都道府県を回り、全国各地で熱狂的な歓迎を受ける。「奉迎場」となった駅前広場や公園で、天皇と国民が一体となる戦前さながらの光景が各地で繰り広げられた。

原氏は同書にある安吾の言葉「地にぬかずき、人間以上の尊厳へ礼拝する」ということが、すでに不自然、狂信であり、悲しむべき未開蒙昧の仕業」を引用し、「ここまですべてで激越に天皇の戦後巡幸と熱狂する国民を批判した人はいない。当時としては傑出した天皇論で、いまなおその輝きを失っていない」と語った。

さらに神格化された明治天皇、その対極の再来を担わされた昭和天皇を比較し、「安吾が理想としたのは、天皇と国民とが対等な人間として会話ができる関係。一般市民と対話しようとした大正天皇こ



▲安吾生誕祭119で講演する原武史さん

そ、理想に最も近い天皇ではなかったか」と語った。

テーマは「天皇論」、講師は政治学者という例のない硬派な講演会だったが、原氏は元皇室担当記者として培った豊富な知見にエピソードを交えて平明に語り、「安吾の天皇論」や「大正天皇流」を初めて聴く聴衆も多く、熱心に耳を傾けていた。

安吾生誕祭実行委事務局・永田幸男

### 坂口安吾生誕祭119開催報告

「坂口安吾生誕祭119」では、明治学院大名誉教授で政治学者の原武史氏をお招きし、「安吾の天皇論を語る」をテーマにご講演いただきました。安吾の文章を丁寧に読み解き、時にはユーモアも交えて語られる原先生のお話には、会場は終始引き込まれていました。

開演前には、安吾の長男である坂口綱男氏によるミニ講演「安吾没後70年に寄せて」も行われ、安吾をめぐる多様な思いが穏やかな語り口で紹介されました。

また、昨年度に続き、同会場のミニギャラリーでは安吾作品の紹介パネルを展示しました。初めて参加される方にも親しみやすく、安吾の世界に自然に触れていただける内容となるよう工夫しました。

来場者アンケートには、「普段聞けないテーマで興味深かった」「安吾の天皇論を初めて知り読み返したくなった」といった声が寄せられました。生誕祭に初めて来場された方からも「分かりますよ、たいへん嬉しく受け止めております。」

安吾の作品に触れるきっかけは人それぞれですが、今回の生誕祭が「自分なりの安吾」を見つける入口となってくれば幸いです。来年は生誕120年の節目を迎えます。これかも皆さまとともに、安吾の魅力を楽しく、丁寧に伝えてまいりたいと思います。

関谷奏和(新潟市文化政策課)  
没後70年 坂口安吾展  
あちらこちら命がけ

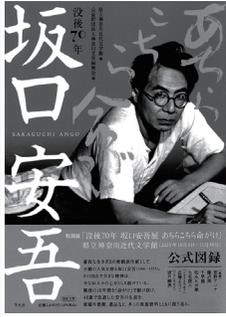
2025年10月4日  
日から11月30日まで、  
横浜の県立神奈川近代文学館で坂口安吾展を開催しました。



▲安吾展缶バッジ

坂口綱男氏、新潟市、新潟市「安吾風の館」事業室の特別協力をいただき、安吾の大ファンでもある荻野アツナ当館館長が編集委員を務めました。

新潟市から寄託資料を含む136点の資料をご出品いただいたほか、未発表書簡や初公開の原稿など約400点の資料を展示し、数々の伝説的なエピソードとともに、安吾の生涯と作品を紹介しました。資料図版と外部寄稿を収めた本展公式図録(A5判・176頁)を平凡社から刊行しており、一般書店でお求めいただけます。



▲図録

会場では特に、安吾の書斎を模した撮影スペースが人気を博し、SNSでも反響がありました。また会期中に行ったオンラインゲーム「文豪とアルケミスト」とのコラボレーションイベントや、併設の「鮎喫茶すずす」による展覧会限定メニューも人気を集めました。来場者数は10,573人へのぼり、男女ともに客層が若く、熱心なリピーターが多いのも印象的でした。生誕120年に向けて、さらなる安吾ファンの盛り上がり期待されます。

県立神奈川近代文学館展示課 浅野千保  
風と光と安吾の映画と  
坂口安吾映画祭2026

坂口安吾生誕120年を期し、シネ・ウィンドでは5月から10月まで安吾原作の映画作品を毎月第2土曜日から上映します。併せて、映画と原作を読み解く読書会も開催。安吾の精神に映画作家たちが如何に挑んだか、スクリーンで確認してください。

- 久志田渉 会場  
新潟・市民映画館シネ・ウィンド  
新潟市中央区八千代2-1-1  
上映作品  
5月 桜の森の満開の下(篠田正浩監督 若下志麻・若山富三郎)  
6月 負ケラレマセン(勝ツマデハ(豊田四郎監督 森繁久彌・望月優子)  
7月 カンゾー先生(今村昌平監督 柄本明・麻生久美子)  
8月 戦争と一人の女(井上淳一監督 江口のりこ・永瀬正敏)  
9月 不連続殺人事件(曾根中生監 田村高廣・夏純子)

※安吾の会の年会費は三〇〇〇円です。郵便振替は「〇〇六九〇一六一三九六三」安吾の会」宛にお願い致します。

事務局長 久志田渉

10月 白痴(手塚真監督 浅野忠信・甲田益也子)  
通常のシネ・ウィンドの入場料でご覧いただけます。

読書会  
上映期間中の第二日曜日午後、シネ・ウィンド内フリースペースにて開催(参加費500円要申込 原作を読み、映画を観てからご参加ください)  
問合せ・読書会申込み  
シネ・ウィンド内安吾の会  
025-243-5530

「安吾の会」2024年度報告 2025.11.4  
2024年度収支報告(2024.10.1~2025.9.30)

収入		支出	
前年度繰越	272,526	安吾雑報・チラシ印刷費 ※2	125,125
年会費 ※1	132,000	中央公民館 月例会会場費	1,500
月例会参加費	85,400	資料工一代	14,180
探案ノート等書籍売上	69,458	交際費 ※3	5,000
街歩き参加費	7,000	郵送切手代	39,600
寄付金	8,000	書籍仕入れ	59,025
		高見さんパソコン修理代	7,200
収入計	574,384	支出計	251,630
次年度繰越(収入-支出)	322,754		

※1 年会費44名分  
※2 安吾雑報: 38775円 読書会チラシ: 86350円  
※3 安吾没後70年事業協賛金

編集後記

▼「新潟県戦後五十年詩誌」も刊行されました。著書は、鈴木良一さん。今度「第14回新潟出版文化賞」を受賞しました。永年の研究成果が評価されました。見事とか言い様がありません。おめでとうございました。

▼「新潟往来・旅人のまなざし」が、刊行されました。著者は永田幸男さん。新潟日報に連載された、近代になって、新潟を訪れた文人達の見たとふるさと新潟の姿。番外編に、1990年の「風と光と三人の文士」現在の安吾を語る」についても必見です。

▼「新潟県人物小伝シリーズ」で坂口安吾を取り上げます。執筆者は、岩田多佳子さん、坂井綱男さんです。今春の予定。「安吾入門書」になります。費用を、クラウドファンディングで、資金を募ります。何卒宜敷しくお願い申し上げます。

▼今年は丙午安吾生誕120年。1年間、「安吾をオモチャにして遊びましょう」サイトウマサユキ サイトウマサユキ 坂口安吾映画祭2026のラインアップがとも魅力的ですね。好きな作品も知らなかった作品も、この機会にぜひ鑑賞したいと思います。

西山寛子

1906-2026 坂口安吾 生誕祭 120

※安吾の会の年会費は三〇〇〇円です。郵便振替は「〇〇六九〇一六一三九六三」安吾の会」宛にお願い致します。